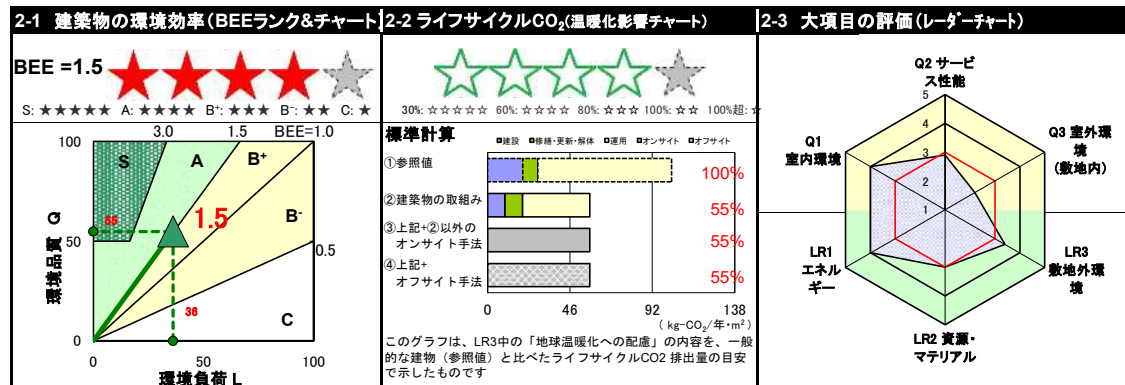
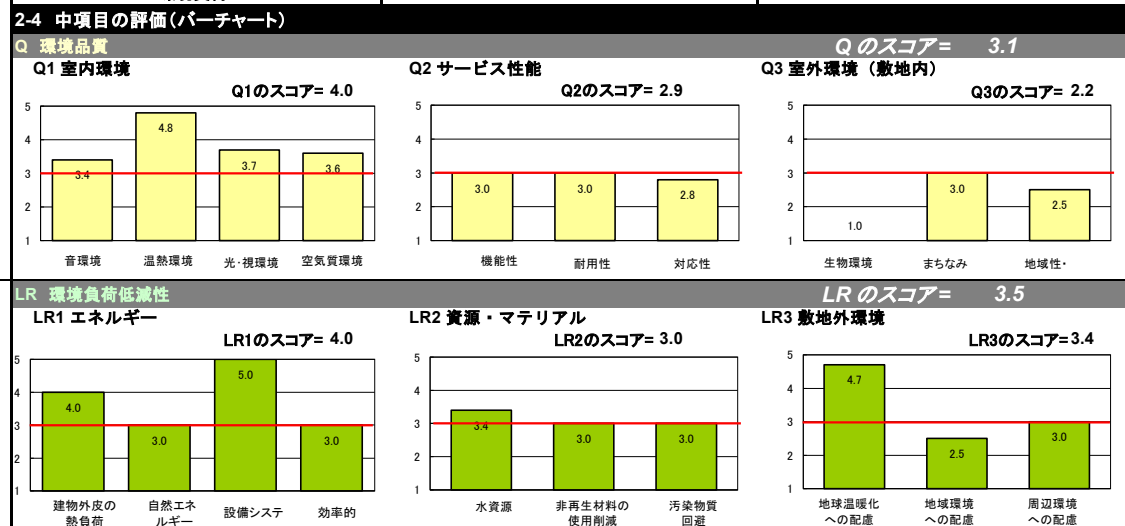


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	イノバス安城コート	階数	地上14階
建設地	愛知県安城市相生町1番277、1番294、1番318、1番319	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	294 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年8月 予定	評価の実施日	2026年9月1日
敷地面積	1,077 m ²	作成者	近藤 花帆
建築面積	359 m ²	確認日	2026年9月1日
延床面積	4,007 m ²	確認者	澤田 勉



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	
4.7	1.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		8.5 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	
3.0	1.0	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
イノバス安城コート

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		独自基準	重点項目							評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質																3.1
Q1 室内環境												0.40			-	4.0
1 音環境										0.4	4.0	0.15	3.3	3.3	1.00	3.4
1.1 室内騒音レベル										3.0	3.0	0.50		3.0	0.50	
1.2 遮音										0.5	5.0	0.50		3.6	0.50	
1 開口部遮音性能				T-2を採用						-	5.0	1.00		5.0	0.30	
2 界壁遮音性能										-	3.0	-		3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										-	3.0	-		3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										-	3.0	-		3.0	0.20	
1.3 吸音										-	3.0	-		3.0	-	
2 温熱環境										0.3	4.2	0.35	5.0	5.0	1.00	4.8
2.1 室温制御										0.6	5.0	0.63	5.0	5.0	1.00	
1 室温										3.0	-	-		-	-	
2 外皮性能				断熱等性能等級5						3.0	5.0	1.00		5.0	1.00	
3 ゾーン別制御性										3.0	3.0	-		-	-	
2.2 湿度制御										3.0	-	-		-	-	
2.3 空調方式										3.0	3.0	0.38		-	-	
3 光・視環境										0.2	3.3	0.25	3.7	3.7	1.00	3.7
3.1 屋光利用										0.3	4.2	0.30	4.6	4.6	0.30	
1 屋光率				窓を大きく設けた						3.0	5.0	0.60		5.0	0.50	
2 方位別開口				全方位に開口部を設けた						-	-	-		5.0	0.30	
3 屋光利用設備										3.0	3.0	0.40		3.0	0.20	
3.2 グレア対策										0.3	3.0	0.30	4.0	4.0	0.30	
1 屋光制御				バルコニー庇+カーテン						5.0	3.0	1.00		4.0	1.00	
3.3 照度										3.0	3.0	0.15		3.0	0.15	
3.4 照明制御										3.0	3.0	0.25		3.0	0.25	
4 空気質環境										0.2	3.0	0.25	3.7	3.7	1.00	3.6
4.1 発生源対策										0.6	3.0	0.60	4.0	4.0	0.63	
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆を使用						3.0	3.0	1.00		4.0	1.00	
4.2 換気										0.4	3.0	0.40	3.3	3.3	0.38	
1 換気量										3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
2 自然換気性能				窓を大きく設けた						3.0	3.0	-		4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮										3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
4.3 運用管理										-	-	-		-	-	
1 CO ₂ の監視										3.0	3.0	-		-	-	
2 喫煙の制御										3.0	3.0	-		-	-	
Q2 サービス性能										-	-	0.30		-	-	2.9
1 機能性										0.4	3.3	0.40	3.0	3.0	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ										0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.60	
1 広さ・収納性										3.0	3.0	-		3.0	-	
2 高度情報通信設備対応										3.0	3.0	-		3.0	1.00	
3 バリアフリー計画			独自							3.0	3.0	1.00		-	-	
1.2 心理性・快適性										0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)										3.0	3.0	-		3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース										3.0	3.0	-		-	-	
3 内装計画										3.0	3.0	1.00		3.0	0.50	
1.3 維持管理										0.3	4.0	0.30		-	-	
1 維持管理に配慮した設計				外壁にタイル・吹付を採用している						3.0	4.0	0.50		-	-	
2 維持管理用機能の確保				床材・排水等、管理しやすい設計としている						-	4.0	0.50		-	-	
2 耐用性・信頼性										0.3	3.0	0.31	-	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振										0.4	3.0	0.48		-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										3.0	3.0	0.80		-	-	
2 免震・制震・制振性能										3.0	3.0	0.20		-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数										0.3	3.0	0.33		-	-	
1 躯体材料の耐用年数				劣化対策等級(構造躯体等)等級2						-	4.0	0.23		-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔			②							-	2.0	0.23		-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔										-	3.0	0.09		-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										-	3.0	0.08		-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				耐用年数の長い配管を採用						-	5.0	0.15		-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔										-	2.0	0.23		-	-	
2.4 信頼性										0.1	3.0	0.19		-	-	
1 空調・換気設備			②							3.0	3.0	0.20		-	-	
2 給排水・衛生設備										3.0	3.0	0.20		-	-	
3 電気設備										3.0	3.0	0.20		-	-	
4 機械・配管支持方法										3.0	3.0	0.20		-	-	
5 通信・情報設備										3.0	3.0	0.20		-	-	

3 対応性・更新性			0.2	3.0	0.29	2.8	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり			-	-	-	2.6	2.6	0.50	
1 階高のゆとり			-	3.0	-		3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-		2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱等性能等級5	3.0	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.78	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	-	-	-	-	
集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水便器、水栓を使用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	②		3.0	1.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	独自		3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	構造部材と仕上げ材が分別可能	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮	①	積極的な省エネルギー対策	-	4.7	0.33	-	-	-	4.7
2 地域環境への配慮			0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自	主要道路からの車の出入りを最小限とした	-	4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

イノハス安城コート

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.7	0.10	3.0
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:8.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 イノバス安城コート

計画上の配慮事項	
総合	省エネルギー(断熱性能、LOW-Eガラス採用等)により環境に配慮した。
Q1 室内環境	床衝撃音に対しての遮音性が優れているスラブ厚280mm以上を確保。
Q2 サービス性能	階高2.9m以上、室内高2.4mとしゆとりある住空間とした。
Q3 室外環境(敷地内)	防犯上、駐輪場は建物内に設けた。
LR1 エネルギー	共用部分の照明器具をLEDを使用し消費電力を抑えた。
LR2 資源・マテリアル	節水型便座や水栓を採用。
LR3 敷地外環境	駐車、駐輪スペースを敷地内に確保した。
その他	